

会 議 録

1 会議名

令和3年度第2回直江津区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【協議事項】

・令和3年度地域活動支援事業について（公開）

①提案者によるプレゼンテーション

②質問項目の協議

3 開催日時

令和3年5月18日（火）午後6時30分から午後9時17分

4 開催場所

上越市レインボーセンター 多目的ホール

5 傍聴人の数

4人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委員： 中澤武志（会長）、青山恭造（副会長）、田中美佳（副会長）、
磯田一裕、今川芳夫、河野健一、久保田幸正、坂井芳美、竹田禎広、
田中 実、田村雅春、古澤悦雄、増田和昭、町屋隆之、丸山岳人、
水澤敏夫、水島正人（欠席者1名）

・事務局： 北部まちづくりセンター：中村センター長、小川係長、千田主任

8 発言の内容

【中村センター長】

・会議の開会を宣言

・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【中澤会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：町屋委員、丸山委員に依頼
それでは議題に入る。

議題【協議事項】令和3年度地域活動支援事業について、事務局へ説明を求める。

【小川係長】

- ・当日配布資料No.1「令和3年度 直江津区地域活動支援事業提案書 受付一覧」に基づき説明

資料の右側に担当課所見欄を設けている。所見で、課題なし、ありとあるが、課題ありの中でも事前に対応が必要な事業が「No.2 五智地区公園の整備、有効活用支援事業」「No.4 直江津区U-40社会人サークル立上げ事業」で、こちらの課題については、事務局で実施前に対応が必要なものと判断したので、事前に提案者に所見の内容を伝えて対応を依頼している。

- ・本日の進め方の説明

【中澤会長】

これより、①提案者によるプレゼンテーションを次第の順番で行う。
プレゼンテーションのときに質問はしないことをお願いをしたい。

- No.9 古城小学校閉校記念に伴う記念誌作成事業
- No.1 クリーンナップ上越 in 五智事業
- No.2 五智公園の整備、有効活用支援事業
- No.3 直江津地区寄り道ライブ支援事業
- No.5 上越市「地域の宝」北前船がはこんだものガイド作成事業
- No.14 福永十三郎顕彰・四十物祭事業
- No.8 「直江津写真フェア」事業
- No.10 《直江津港から元気発信》事業
- No.11 海鮮市場事業
- No.12 『なおえつ物語』発信事業
- No.13 鉄道の町「直江津」発信事業
- No.6 「直江津のランドデザインを描く」事業
- No.7 天王川クリーンナップ大作戦事業
- No.4 直江津区U-40社会人サークル立上げ事業

【中澤会長】

以上でプレゼンテーションを終了する。

(10分の休憩)

次に、②質問項目の協議を行う。提案番号順にいきたいと思う。この事業について、ここがわからない、ここが問題ということもあるかと思う。細かい質問等については、今回、質問の用紙があるのでそちらに回していただくことも可能である。

最初に「No.1 クリーンナップ上越 in 五智事業」について質疑を求める。

【町屋委員】

今年もこの事業で50万円ぐらい。ご本人も言われたが、随分と回数を重ねてトータルでかなりの金額がこの事業に投入されていると思う。決して悪いことだとは思っていないし成果も上がっていると思うが、この事業が地域活動支援事業の支援がなくなっても続くために、それだけのお金をかけたのであれば、来年以降も地域活動支援事業があってもなくても続くような事業の構成にしていきたい。

毎年、国府小学校の子供たちに看板を作ってもらい、事業として行っている。ご本人からはそれがとても良いことだというお話があったが、事業の継続性を図るのであれば、普通に看板1枚を業者に建ててもらったほうがよほどよいのではないか。啓発ポスターも看板的なものにシフトしても良いのではないか。ポスターを書く以外にも、子供たちの環境教育のためにできることがあると思うし、ご本人も口にしている以上は、次年度以降も続くのであれば事業を継続する基盤の確立を検討していただきたいと思う。

【中澤会長】

他にないか。

【田中実委員】

支出の部分の内容が3年間すべて同じである。毎日海岸通りを確認しているが、毎年看板を作っているが看板らしきものは一切見当たらない。風で飛んでいったということであれば理屈はおおと思うが、事務局に質問だが、実際にこの見積書は出ているのか。

【増田委員】

必要なものは、後ろに付いている。

【田中実委員】

肥料を買うとか、事細かく書いてあるがその見積書が見当たらない。

【増田委員】

消耗品なので、その見積書は必要ない。

【田中実委員】

他区のことになるが、私自身、春日区、名立区に提案書を出しているが、他の区ではすべて見積書が必要である。それも必ず2者必要である。

【増田委員】

他の区はともかく、市の要綱に沿って提出すれば良いので、要綱に反していれば行政のほうで指導する。市販の購入する物に対して、全て見積りを提出するようには指導していない。

【田中実委員】

実際これだけの品物を買ったと他の地区では証拠写真までつけて提出するように言われている。同じ上越市なので他の地区と同じような形でやっていただければありがたい。

【中村センター長】

収支計画に書いてあるが、アクリルパネルは消耗品なので見積りは必要ない。チラシ300枚については、見積書の②③で、提案者から提出いただいている。

【水島委員】

この会を進行するにあたって、今ほど田中実委員から意見が出た。そしたら、他区の取扱いだからという意見があった。そういうやりとりはされないのか。時間的なものでされないのか。私はむしろやったほうが、この次の会をやるときに、皆さんにおわかりになって、もっと良いのではないかと思うがいかがか。

【中澤会長】

会の進行の仕方だが良いとは思う。だから、私は別に止めてはいない。この会議のあり方としては、もし意見があったら発言してもらって、お答えいただくとか。そういう形でやりとりをしていただければありがたい。

【水島委員】

承知した。増田委員がおっしゃったように、いろいろな意見が出てくると思う。それをキャッチボールすることによって、内容がもっと濃くなるような気がする。わからないままで終わると、前回と同じ状況になってしまう。わかる人はわかるが、わからない人は点数の付け方までわからない。それはいかななものか。

【中澤会長】

お互いに討論を交わし合うのは、できれば次の会でやりたいと思う。今日は採点する

上で提案者に聞くための抽出作業ととらえている。事業の問題点や解決策まで話し合っているのは時間内に終了できないのでストップしている。例えば、「ここは省力化できるのではないか」というような質問を、後で出していただければありがたい。

【田村委員】

チラシ300枚とあるが、どこを対象にしているのかわからない。

【中澤会長】

それも質問という形で出していただきたい。

【古澤委員】

これは質問という形なので答えを求めるべきではない。だから、質問のところは言いつばなしでいいと思う。そうしないと話が終わらない。次の時にどうするかを決めればいいので、時間との関係があるのできちんと皆さんの頭の中にいれていただきたい。

【中澤会長】

会場の閉館時間もあるし、もし終わらなかったら、別の日にまたこういう協議をすることになるかもしれないが、それを覚悟して発言してほしい。

それでは、「No.1 クリーンナップ上越in五智事業」については

・今後、自分たちで自立的に実施するための具体策はなにかという質問とする。

次に「No.2 五智公園の整備、有効活用支援事業」について質疑を求める。

【磯田委員】

展望パノラマの件だが「課題あり」という指摘があって、説明の中でも役員と協議するという話があったが、役員と協議後、見積り金額に関わる変更の有無をどのように対処すればよいのか、事務局はこの件についてはどのように考えているのか。

【中澤会長】

今は、質問事項だけにしてほしい。

【田村委員】

ベンチの話だが、ベンチは公園の施設の一部として必要ではないかと昨年行政側とよく相談をしてもらったのでないか。

【中澤会長】

その話は次回にしてほしい。必要があれば質問で出してほしい。

【増田委員】

会長が言われるようにここで論議することではなくて、昨年不採択としたものを地域

協議会として、今年採択にするわけにいかないのではないかと。

【田村委員】

多様な意見があるのだから、みんな考え方が変わるかもしれない。

【増田委員】

多様な意見はあっても良いが、毎年方針が変わるようなことを地域協議会がやっては駄目だと思う。

【田村委員】

方針が変わるわけではなく、いろいろ考え方を変えてなるほどと思う人もいないか。私たちとして、これは行政にもう任せておけないと、それぐらいは賛成してもいいか、という人が出てくるかもしれない。それは多様な意見なので決めつけては駄目だと思う。

【町屋委員】

議論の進め方として、何か質問票に書けと言ったら、この議論する時間がなくなるのでここで解決できれば良いのではないかと。質問していたら、ここに書いてあるのと言われるだけだから、ここで解決できるのはすごく良い事だと思う。だから、そこはあまり遮らないでほしい。

【中澤会長】

承知した。

次に「No.3 直江津地区寄り道ライブ支援事業」について質疑を求める。

【古澤委員】

演奏者、観覧者を集めると書いてあるが、支出部分を見ると、宣伝のポスター類が全くない。どのようにして集めるのか。町内はどちらかというと高齢者ばかりだが、それをどのように成功させるのか。

【中澤会長】

練習会場費を盛ってあるが、高校生の話を聞いたら、一生懸命アルバイトして練習会場費や楽器だとかを賄っている。そういうものまで、面倒見ていいのかと疑問を持っているので、練習会の中身を聞きたい。

【町屋委員】

事業の本質と違うところにあるのに、発表会をしたい、練習会も必要だというのはとんでもない話で考え直してほしい。提案書の中にも三八の市から始まって、3と8の日

の集客ではないところの集客になって欲しいと言われている割には、そこに対しての方針が全然書かれていない。古澤委員がおっしゃったとおりチラシも何もないのに、そこに対してどういう努力をするかが書かれていないので、その部分はもう少し聞くべきではないか。

【磯田委員】

採択の方針等の整合の中で、歴史と文化あふれる直江地区の観光資源を活かす事業というふうに大々的にうたっているが、自分のところの音楽イベントをやりたいというだけで、その歴史的文化を活かす活動が何も書いてないが何かあるのか。

【中澤会長】

それでは、「No.3 直江津地区寄り道ライブ支援事業」については、

- ・募集の仕方と練習の中身はなにか
- ・歴史的文化を活かす活動は何かあるのかという質問とする。

次に「No.4 直江津区U-40社会人サークル立上げ事業」について質疑を求める。

【町屋委員】

サークルを立ち上げたいのであれば、立ち上げれば良いのではないか。そこに対しての手法として、ビーチクリーン活動を行うためにお金がかかるという。しかし、支出の大半を見ると広報である。会長がおっしゃった、高校生が自前でバンドの練習をする。それと同じような話で、もし立ち上がってここで何かイベントをしたいというときに、提案して欲しかった。今の段階で事業提案されて、活動にお金が必要だとか、広報代が必要だというのは私の中では納得いかない。

【中澤会長】

これは、あとで協議することとする。

次に「No.5 上越市「地域の宝」北前船がはこんだものガイド作成事業」について質疑を求める。

【古澤委員】

ガイドブックのチラシ等が、なかなか行き渡っていないというのが私の見ている状況である。今まで配ったチラシの中で、在庫状況はどのくらいあるのかを今一度検証してみしてほしい。いろいろな商店に行くとチラシが残っている。その部数が適切なのかを質問したいと思う。

【田中実委員】

事務局にお聞きしたい。No.5とNo.14だが、指定管理をされている人が、提案されても良いのか。春日区に在籍していた時に、市民プラザの市指定管理者が多額の提案をされて、本庁に聞いたら良くないということで、取り下げになった件がある。これを確認していただけないか。

【中村センター長】

春日区の事業は承知していないが、今回、まちおこし直江津は、ライオン像のある館の指定管理者ではなく建物の管理委託を請負われているかと思う。ライオン像のある館の入場料はなく、組織の収入を増やすというものではないので問題ないと考えている。

【中澤会長】

次に「No.6 直江津のグランドデザインを描く」について質疑を求める。

【町屋委員】

この事業に対しては、事業の対象者である直江津区地域協議会に対しての許諾を入れているのか。直江津区地域協議会ありきで、事業の構成があるのでそこに関してどうなのか。

【中澤会長】

この事業については、ずっと先までスケジュールを提案されているようだが、こういうプロセスで事業を進めていくということだから、今年度について我々が考えれば良いのではないか。あと提案書を見て、また考えるということの良いのはないか。それをまた直江津区地域協議会がどう扱うかはそのあとの話だと思う。

他にいかがか。

【田中実委員】

着眼ということで、中心市街地、高田区、直江津区といろいろ長い目で見てきたが、まちづくりとかいろいろな形で再生をやるのは、なかなか難しいというようなものを目にした。こういうものも参考にしながら、我々地域協議会も巻き込んでやられるということであれば、こういうものも参考資料として、頭の中に入れて行動していただければありがたいと思う。

【中澤会長】

上越市第6次総合計画は、どういった人が作っているのか。市の偉い人が集まって作っているのか。それとも発注しているのか。

【増田委員】

総合計画審議会というメンバー30人の審議会がある。それは各機関の代表や公募委員が3人とか、いろいろな人たちが集まっている審議会だが、企画政策課が原案を作って、そこに諮って、パブリックコメントをかけて、議会の議決を経て最終決定する。これが、上越市の最上位計画と位置付けられている。

【中澤会長】

他に質問はないか。

市民レベルで作っていくということなので、質問があれば後日出していただきたい。

次に「No.7 天王川クリーンナップ大作戦事業」について質疑を求めるがなし。

次に「No.8 「直江津写真フェア」事業」について質疑を求める。

個人的に質問を出すときに、自分の意見や要望を出す人がいた。この商品はいらないのではないかと。そういう質問の形態は駄目である。何か相手がちゃんと答えられるような質問を出してほしい。

次に「No.9 古城小学校閉校記念に伴う記念誌作成事業」について質疑を求める。

【町屋委員】

配布先が地元限定されているが、例えば効果の還元先が、全市に渡るような事業は考えられないのか。もう1件は、教育総務課の所見で、「閉校記念事業補助金の活用の相談を受けています」と今日の配付資料に書いてあるが、そちらとの絡みはどうなっているのか。

【中澤会長】

事務局のほうで何かお聞きになっているか。

【中村センター長】

今回の記念誌については、市の方の補助金は活用しないと理解している。

【磯田委員】

私は、事業の内容と実施方法の3番から下は、閉校記念事業補助金でやるということなのだと思う。1番の記念誌は地域活動支援事業を使わせてくださいというようになっていると思う。3番以降をここに書いているから、余計わからなくなっているのかと思う。

【町屋委員】

この事業は、配布先が限定された町内会に配る冊子を作るということに疑問を感じる。

【磯田委員】

事業の目的、期待する効果のところの目的の最後だが「古城小学校の総合的な学習の時間において当小学校の歴史や沿革を学習する」ということだが、この記念誌の話がどこからリンクしているのかよくわからない。記念誌に何かこの成果を入れるのかと疑問がわいてくる。その辺の記念誌に一体何を入れ込んでいくのか、3番以降の話とリンクしているような気もする。

【中澤会長】

編集内容はどの程度で煮詰まっているのかという質問形態で出して欲しい。その辺はまだ話をしてないのではないかと思う。

【田村委員】

先ほど、1番と2番が地域活動支援事業、3番から5番は市の助成金を使うという話だが両方使っても良いのか。市の助成金を使う場合地域活動支援金は使えないという大枠が決められていることがあるので、事務局はわかっていらっしゃるのか。

【中村センター長】

この事業で地域活動支援事業の対象としたいのは、記念誌を作り配布することである。また、今日配布した担当課所見の「記念誌作成以外事業の閉校記念事業」について、石碑とかも考えているのかもしれない。また、式典を教育総務課の閉校記念補助金を活用するかはわからない。「式典や思い出発表会を閉校への気持ちを大事にしていくとか、子供たちに心に残るような形にしていきたい」というところを指し、記念誌と関連したソフト事業として実施する」というところと思う。

【中澤会長】

解釈として、やりたいことを全部書いているから、そういう疑問が生じているので、「これをやりたいので、お願いしたい。他にこういうことがある」といった形にしてもらえば良いのではないか。

【田村委員】

外すものを外して、対象がこれだけだと書き直してもらえば良い。ここからここは削除するとか、そういう提案に修正してもらえば良いと思う。

【中澤会長】

・どこまでを支援事業の対象にしているのかという質問とする。

次に「No.10 《直江津港から元気発信》事業」について質疑を求めるがなし。

次に「No.11 海鮮市場事業」について質疑を求める。

【町屋委員】

収入と支出のバランスに関して、材料費はその場でお客さんからいただいたお金で充てるべきではないか。過剰な利益を求める必要はないが、赤字を垂れ流す事業は本来どうなのか。ショー的な部分の賑やかさを隙間なく行いますと書いてあるが、今このご時世でそういうことする必要があるのか。そこの部分に関して対策を取っていると言うでしょうが、もう一考していただいたほうが良いのではないか。

【中澤会長】

名前が変わったが、例年やっている寒ブリ祭りはかなり三密である。このご時世で果たして実施できるのか。1か月前に判断されるということだが、中止という判断だとここに掛かる経費は他に使いようがなくなる。そういうリスクな部分があるので、これについては、質問ではなくて次の会議で皆さんとお話をしたいと思っている。

次に「No.1 2 『なおえつ物語』発信事業」について質疑を求める。

【増田委員】

見積りに看板が1から4までであるが、看板の内容がわからない。看板の内容を説明してほしいと質問したい。

【町屋委員】

供養塔を見たらそんなに立派なわけではない。これを大事にしたいのであれば、塔を大事にすることとあわせて、越ノ海勇蔵に関する啓発や句碑の出前講座とかを開いたりするとか、越ノ海勇蔵をもっと市民にアピールするような仕掛けも考えて欲しい。

【磯田委員】

提案書の中に紙芝居の話で啓発活動とか、今まで作った話の中で、勝島会長が読んでいたが、そのストーリーの流れの中で出てくる人物の逸話である。それを学校でやったり、出前講座でやったりというような活動は、越ノ海勇蔵を紹介する道筋の中で、福永十三郎の話の中で、そういう人がストーリーとして出てきて、スポットを当てているので、町屋委員の言っていることはやれているのではないかと感じる。

【中澤会長】

次に「No.1 3 鉄道の町「直江津」発信事業」について質疑を求める。

【古澤委員】

移設だけで終わるのか、直江津駅前商店街との連携をどのように進めていくのか、せっかくの機会なので移設だけではもったいないという意見がであったと伝えてほしい。

【中澤会長】

・これからの連携をどう取るのかという質問で良いか。

【磯田委員】

この車両のところのある動輪を北側に持ってくるという話である。250万の費用をかけて持ってくるという話だが、この費用対効果というものをどのように見ているのかという質問をしたい。北口に持ってきて、南口に来た人がそれを見に行くみたいな雰囲気のこと書いているが、それを目的に移動する人がいるのか、或いは駅前商店街との連携の話等、その先が全然見えていなくて、北口に持ってきて何をするのかという気がする。

【田中美佳副会長】

それほどのお金をかけてまで、皆さんこれをすごく見たいと思うものなのか。鉄道の好きな人は絶対に見たいものなのか。

【田村委員】

なぜ、南口にある動輪を北口にもってくるのか。南口に置いた意味は何だったのか。

【中澤会長】

南口にある動輪と対で置くということである。

【田村委員】

南口で見ていると、正直言って市民がこれで喜ぶのかという気はする。全く悪いとは言わないが、ここは動輪の機関車が走った場所なのだと思う程度で、それは未来の子供たちにどういう影響を与えるかはわからない。

【町屋委員】

大金をかけて動輪を移設すれば、事業の目的を達成できるのか。この事業の目的は移設しなければ達せられないもののように思ってしまうがそうなのか。鉄道の町もそうで、例えば観光も福島城の話もそうだが、そういう町だというのであれば、そういう機運を盛り上げようという中の一環として、いろいろなイベントの設定を機運が盛り上がったからお金をかけるのはわかりやすいと思う。

子供のころから直江津は鉄道の町だと理解しているが、残念ながらそれが町のコンセンサスとして、この町が鉄道の町だという気運としての醸成はされないと思う。そういうところを一生懸命やって、その中で盛り上がってきてみんなが知っているとなったら、初めてそこに大金をかける価値があって、何でもやればいいことだと思うが、大金をか

けてただ移すというのは、事業のあり方としてどうなのかなと思う。

【中澤会長】

そういう機運を盛り上げるためにやるということである。

- ・費用対効果はどうかという質問とする。

次に「No.1 4 福永十三郎顕彰・四十物祭事業」について質疑を求めるがなし。

確認もせず、質問をまとめもせずに来たので、確認をしたいと思う。

【中村センター長】

それでは、「No.1 クリーンナップ上越 i n 五智事業」への質問は、

- ・補助金なしでも続く事業へのシフトを考えられているので、その道筋を具体的に示して欲しいという質問とで良いか。

「No.2 五智公園の整備、有効活用支援事業」については、パノラマの大きさとかを検討するが、役員会で話をするとおっしゃっており、都市整備課と検討されるので、協議会として「質問なし」でも良いかと思う。

【増田委員】

行政からパノラマの大きさや位置を指摘されているので、課題ではないが「やってください」と言われているので、これに対してどういうふうにしたかはしっかりと回答してもらったほうが良いと思う。話し合った結果を示してほしい。

【中澤会長】

採択した後での話になるのではないか。

【増田委員】

どのように解決するかをぜひ聞かせてほしい。

【中澤会長】

- ・行政からの指摘に対して、どのように解決するか方法を示してほしいという質問とする。

【田村委員】

ベンチの問題はどうするのか。

【中澤会長】

「再度ベンチの要望を出した必要性はどうか」ということか。

【田村委員】

「ベンチについて行政との協議があったのか」である。

【中澤会長】

視察に行ったときに「必要だ」という話をしていた。質問ではなく次の会議で話し合
ってはどうか。「方針を変えてはいけない」という意見もあるが、皆さんで考えないか。

【田村委員】

ここで、ベンチが必要ないとカットするよりは、質問を投げかけておいたほうが提案
者も考えるのではないか。

【水島委員】

今まで駄目だったものをひっくり返すような行政ではないのではないか。

【町屋委員】

行政は関係ない。駄目と言っているのは、地域協議会である。

【古澤委員】

協議会で意見が出たということで良いのではないか。

【中澤会長】

質問ではなく、次回の会議で協議することにしたい。その前に都市整備課とどのよう
な協議をしたか、協議の内容を質問するということが良いか。

【中村センター長】

「No.3 直江津地区寄り道ライブ支援事業」については、

- ・ 宣伝費は必要ないのか
- ・ 練習会の内容はなにか
- ・ 歴史的な観光資源を活かすというところの趣旨と合っているのかという質問が良いか。

【中澤会長】

「No.4 直江津区U-40 社会人サークル立上げ事業」については、質問なし。

「No.5 上越市「地域の宝」北前船がはこんだものガイド作成事業」については、
今までガイドブックを作っているが、その残部状況はどうかという質問が良いか。

【古澤委員】

いろいろな場所で見ると大分余っている。配らないとか持っていないとか。
それを含めて、今後の発行枚数はその枚数でいいのか。作ったからにはやはり配り切っ
てもらいたい。

【町屋委員】

それは、作ったら配り切る必要があるのか。観光マップと違って人に持っていても

らうのではなく、欲しいときに手に入れば良いのではないか。

【古澤委員】

ただ店に置いているだけである。それであれば町内会に配るとかすれば、見る人は見る。自分で取りたいと思って取らない。

【町屋委員】

そういう性格のものではないと思う。

【古澤委員】

せっかくお金を使って作るのであれば、はけてもらいたい。それであれば配布のほうが良いのではないか。

【中澤会長】

- ・配布先も含めて部数は適量かどうかという質問とする。

「No.6 直江津の町のグランドデザインを描く」については、質問なし。

「No.7 天王川クリーンナップ大作戦事業」については、質問なし。

「No.8 「直江津写真フェア」事業」については、質問なし。

「No.9 古城小学校閉校記念に伴う記念誌作成事業」については、

- ・地域活動支援事業の対象はどこまでかという質問とする。

【磯田委員】

6番の次年度以降の活動の見通しのところに図書館に配るとか、地域住民に配布を行うと書いてある。ダブって書いたみたいな感じだが、配布先の話もはっきりしないところがあるので、町屋委員の質問のところにこの6番の話も書いていただきたい。

【田中美佳副会長】

配布先が地元に限らず全区にということと、6番のところに図書館への寄贈とか、地域住民への配布を行うと書いてあるが、それはどうなっているのかという質問で良いか。

【中澤会長】

- ・配布先と配布部数は適当かという質問を加える。

「No.10 《直江津港から元気発信》事業」については、質問なし。

「No.11 海鮮市場事業」については、

これは、町屋委員から細かい収支についての個別質問があるということで良いか。

【増田委員】

「コロナで1か月前に廃止すると100万円からのお金が浮いてくる。他の団体が有

効に使えることもあるので、そのことはどのようにお考えか」と聞いたほうが良いと思う。補助金が固定されて使えなくなってしまう。

【中澤会長】

1か月前に中止ということになったら、他の団体では使えなくなるので、その辺をどのように解釈しているか。

【水島委員】

今の状況から考えるときに飲食をするときに、そういうふうな話し方しかできない。だから良いというわけではないが、そうすると、他のところでも出てくる話なのではないか。飲食はしていないが、他のところでも密集するとかいろいろな状況が出てくるような気がする。やれるかやれないか考えるときに、クラスターがおきたらどうするかと言われたときに、その人が判断されるのは当日かもしれない。でも非常にシビアな問題だと思う。

【町屋委員】

このタイミングで判断できることと、できないことがある。後になればなるほど状況が変わってくる。良くなるか、悪くなるかわからないが変わってくる。ブリを売るというだけであればそんなに問題はないと思う。ここの事業計画には、ショー的なイベントを隙間なく行って多くの人達を賑やかしと書いてあるが、それまでを今回しなくてはいけないというのは、今の段階では後押しはしづらい。アルコールもそうだが、売るだけであれば、何の問題もないし多少の飲食を伴ってもそんなに目くじらはたてないが、こんなふうなまで、わざわざ今の段階で事業計画としてあげるのはどうかと思う。

【増田委員】

保留にしておいて、二次募集の時に判断しようという方法が一番いいと思う。

【町屋委員】

それは、できるのか。

【中澤会長】

皆さん了解して、提案者も了解してくればそれで良いのではないかと。

【久保田委員】

今コロナの心配で、その議論が出たのではないかと思うが、今この時点でどの事業をやるにもコロナ対策は考えて提案していると思う。もし、今この時点で事業がコロナで駄目だと言え、スーパーマーケットや商店関係の事業など全部できていないはずであ

る。コロナのことを理由に今ここで厳しいというのはなくて良いのではないか。

【中澤会長】

収支についての細かい質問だけ後で委員のほうから出る予定なので、是非については次回話をしたいと思う。

「No.12 『なおえつ物語』発信事業」については、

- ・4つ看板作るが看板の内容を知りたいという質問でよいか。

【小川係長】

看板を作るのは、4つではなく2つである。事務局で番号を入れておけばよかったが、提案書の最後のページに写真の下に説明がある。前のページの金額と一致しており、左側の9万9,000円が看板製作3で1つ。右側のステンレス看板9万3,060円が看板製作2、その下の5万5,000円が看板製作1、その下の8万5,000円が看板製作4をあわせて1つの看板を作る。

【増田委員】

質問は、説明看板とあるが何を説明する看板かをきちんと言ってもらわないとわからないということも含まれている。もっとわかりやすく書いてもらわないとならない。私たちはどう考えても、みんな4つ作ると思っている。提案者だけがわかっていたのでは、説明にならない。

【中澤会長】

- ・看板の内容はなにかという質問とする。

「No.13 鉄道の町「直江津」発信事業」については、

- ・費用対効果はどうなのか
- ・商店街との連携はどうするのかという質問とする。

「No.14 福永十三郎顕彰・四十物祭事業」については、質問なし。

次に「その他」について、事務局へ説明を求める。

【小川係長】

- ・今後のスケジュールを説明
- ・次回の協議会：6月3日（木）午後6時30分から

【中澤会長】

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 北部まちづくりセンター

TEL : 025-531-1337

E-mail : hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。